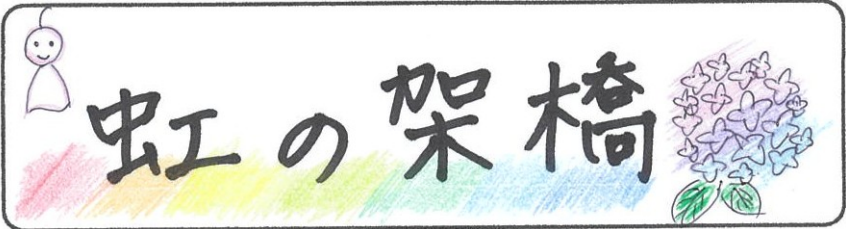


令和 4 年 6 月 1 日 発行
企画・編集 松崎 靖
発行 (株)足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380 (〒376-0101)
Tel 0277-73-1212
Fax 0277-70-1066

虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月1日発行する地域新聞です。



今月の題字
井口由美さん

(桐生市新里町)
大間々駅前の旧小林眼科で月2回
「みんなのほけんしつ」を開設。
無料で気軽に育児や健康の相談に
のってくれる看護師さんです。

虹の架橋「検索」で、インターネットからでもご覧いただけます。

『浪曲の殿堂』復活

浪曲協会会長・東家三楽一門会
昭和十二年に建てられた「ながめ余興場」は「浪曲の殿堂」として、歴代の浪曲協会会長が次々と舞台上に登場しました。戦前戦後の激動の時代に、笑いと涙で日本人の心を癒し続けてきた浪曲は今、第十八代会長・東家三楽師匠に引継がれています。三楽師匠は襲名以前の「富士路子」の時代から、ながめ余興場を愛し、三味線曲師の重鎮・伊丹秀敏師匠や弟子たちと共に一門会を続けてきました。

今回の出演は、東家三楽、富士実子、東家千春、東家志乃ぶのほ

浪曲三楽の世界 (日本浪曲協会元富士藩主)
ながめ DE 浪曲
6月11日 (土) 14:00開演 (13:30開場)
・日時 令和4年6月11日(土)
・場所 ながめ余興場
・全席自由 ¥1,500円
浪曲 東家三楽 (演目) 同期の桜
浪曲 富士実子 (演目) 花の老若者 (新演目)
浪曲 東家千春 (演目) 人情芝居
浪曲 東家志乃 (演目) 人情芝居
主催: 特定非営利活動法人ながめ黒子の会 (0277-73-1195 シナナ)

か、八十七歳の曲師・伊丹秀敏、伊丹けい子さんが出演します。
ながめ黒子の会賛助会員募集中
ながめ黒子の会は、ながめ余興場の保存活用を目的とするボランティア団体として平成五年に結成し、今年度には結成三十周年を迎えます。この間、梅沢富美男特別公演、中村座歌舞伎公演、おわら風の盆特別公演など、伝統ある芝居小屋の価値を高める公演を実施してきました。今後更なる活動の輪を広げるために今年も賛助会員を募集します。年会費は一口千円。口数に応じて五百円の割引優待券を発行します。今後は、年四回の定例寄席だけではなく、今回の浪曲公演や九月に予定している「おわら風の盆」公演などにご優待の対象となります。

～ながめDE浪曲～
6月11日 (土) 14時開演
木戸銭: 1,500円
チケットは小屋設計、足利屋、シイナ、さくらもーるアスク

世界一小さな
足利屋
トイレ美術館

今月の写真《322》

黒内一光さん『虹の架橋』



風景写真の愛好家団体「ぐるっぺ風景」の代表の黒内一光さんから素敵な写真をいただきました。「写真のタイトルは自由につけてください」と黒内さんに言われたので『虹の架橋』と名付けました。NO RAIN, NO RAINBOW (雨が降らなければ、虹は出ない) というハワイのことわざがあります。この写真を見てみると、真つ黒な雨雲が去った後に美しい虹が架かり、その先には明るい未来が待っているという教えが込められていると思いました。私たちの目の前に現れる出来事や出会いは全て、人生で大切なことを教えてくれるためにあるのかもしれない。

靖ちゃん日記

令和四年五月三十一日(土)
富弘美術館で開館三十周年記念式典が開催された。星野富弘さんは「まさかこんなに長く続くとは思っていませんでした。支えてくれた多くの人たちのお陰です」と、若々しい声でお礼を言っていた。その後、サンレイク草木で、富弘美術館を囲む会の支部長会議が三年ぶりに開かれ、ロサンゼルス支部を含めて十七支部の支部長が集まった。同窓会のようを明るく和やかな雰囲気だった。「放課後」と題する富弘さんの作品に、「私の一生懸命は放課後から始まった。放課後に汗を流し、放課後に笑い、放課後に悩み、放課後に学んだ。大切なことはみな、放課後に学んだ。あれから何年すぎたのだろう。私は今、人生の放課後を生きている」という詩があった。支部長の多くが富弘さんと同世代。今、人生の放課後を楽しんでいる。という解放感に溢れていた。もう「老化後」は考えない。



小耳にはさんだ
いい話
(文責・靖)《322》

小善のすすめ

がめ余興場」で鍵山さんの講演会を開きました。その時の話を本にしたのが『小善のすすめ』です。今から三千年前に作られた中国の『易経』という書物の中に、「小人は小善をもって益なしとして為さざるなり。小悪をもって傷(そこ)なうなしと為して去らざるなり」という言葉があります。鍵山さんは「小人(普通の人)は、小さな良いことをしても益はないと思つてやらない。例えば、目の前にゴミや空き缶が落ちていても自分にプラスになるわけではないと思つてやらない。一方、吸殻や空缶を捨てるような小悪をしても誰も見てないからいいだろうと

思つて小悪を止めない。小善はやらなくて、小悪はやるのと、小善をやつて、小悪をやらないのでは、一日や二日では大した差ではありませんが、五年十年と続けると、人生が変わるくらい大きな差になるのです」と言っていました。道端にゴミや空き缶が落ちていて、今でも鍵山ののを見ると、今でも鍵山さんの笑顔と「小善」と「小悪」という言葉が頭に浮かんできます。

鍵山さんが大間々に来るたびに、駅のトイレ前の花壇の雑草を一本一本丁寧に抜いて、同じ向きに東にし、並べながら『益はなくとも意味はある』という言葉も教えていただきました。大間々駅のトイレ掃除は平成九年七月二十五日に第一回目をを行い、一週も途切れることなく、六月十日で千三百回を迎えます。そして、七月には九二十五回を迎えることになりました。『十年偉大なり、二十年畏るべし、三十年歴史なる』という言葉通り、一回一回の小さな積み重ねが歴史を作り、自分自身を作り上げていくのだと思います。



去年の八月から毎日一万五千歩を目標に毎日歩き続け、その後も一日一万歩と決めて三百日になりました。健康なればこそできる自己満足の記録です。月曜日は福岡大橋、火曜日は自音寺、水曜日はさくらもーる方面と曜日によってコースを変えて歩きます。般若心経を唱えながら歩くと四回唱えて約千歩になります。高津戸橋近くにある阿弥陀堂、蕪町(かぶつちよ)の赤城神社、新川の天神様など、車では通り過ぎた姿で鎮座しています。目標達成まであと六十五日になりました。

